



10月5日は革新的な起業家の命日

校長 三村 孝志

川東中学校の図書室の入り口に、新刊の本が置いてあります。東野圭吾の小説（とてもおもしろい、映画化された小説も多い）、世界の伝記シリーズ（漫画です）、矢部太郎の『大家さんと僕』（大家さんがとても魅力的）などです。その中に「スティーブ・ジョブズ」の伝記がありました。ジョブズの生涯を簡潔にまとめたものです。ジョブズは2011年10月5日に亡くなりました。

その本を手に取り、眺めながら、かなり前にYouTubeで見たスピーチを思い出しました。138ページから、ジョブズの名言が載っています。名言の中に、スタンフォード大学の卒業式でジョブズが行った、有名なスピーチの言葉がありました。

I have looked in the mirror every morning and asked myself: "If today were the last day of my life, would I want to do what I am about to do today?" And whenever the answer has been "No" for too many days in a row, I know I need to change something.

それほど難しい単語はありませんから、中学生なら辞書を引きながら読めばおおよその意味はわかるでしょう。ですが、日本語訳を紹介しておきます。

私は毎朝、鏡に映る自分に問いかけるようにしています。「もし今日が最後の日だとしても、今からやろうとしていたことをするだろうか」と。「違う」という答えが何日も続くようなら、ちょっと生き方を見直せということです。

この言葉を「どうせ今日で終わりなのだから、好き勝手やらせてほしい」というように短絡的にとらえてはならないと思います。私たちは、全知ではないので、自分の人生がいつ終わるかを知ることができません。人生は一日一日の積み重ねです。その長い時間の中で、私たちは変化していきます。意識的な変化も、無自覚な変化もあるでしょう。しかし、今の自分を「そのままがいい」と考えていると、気づいたときには白髪のおじいさんということになりかねません。若い君たちは、自分の人生には十分時間があると多分思っていることでしょう。私もそうでした。ですが、気づいたときには遅い。今の自分を厳しく見つめ、自分が本当にしたいこと、本気で取り組まなければならないことを考え、自分を変えていかなければなりません。変化ではなく変革。それは未来の自分のためです。

もう一つ有名な言葉があります。

Stay Foolish. And I have always wished that for myself. And now, as you graduate to begin anew, I wish that for you.

Stay Hungry. Stay Foolish.

ハングリーであれ。愚か者であれ。私自身、いつもそうありたいと思っています。そして今、卒業して新たな人生を踏み出すあなた方にもそうあってほしい。

ハングリーであれ。愚か者であれ。

伝記では「ハングリーであれ。ばかであれ。」と訳し、「**挑戦することをおそれるな。常識は気にせず、自らの信念にしたがえ**」という意味がこめられていると述べています。素直で、他人のことをよく聞くことは美德ですが、違う見方をすると、主体性のなさ、信念のなさとも考えられます。自分の信念、何に価値を見いだすかを考え、これが自分なのだという主体性をもたなければなりません。

もし時間があったら、ジョブズのスピーチを聞いてみてください。意味はよくわからないかもしれないけれども、表情や所作から、ジョブズが本当に伝えたいことを話していると感じられると思います。